

告 176-6  
(告 176-2 の反訳)

野村：審査請求ですよ。問題は審査請求。審査請求で出したものをね、皆さんは、ちゃんと見てなかった。同じような情報開示をして、その不開示をして、それで審査請求を出して、半年も時間をかけて、やって、今回、同じようなものを出してね、それは当然、前回の審査請求でね、出された判断を踏まえてやるのが当たり前。にもかかわらず、それを一切、踏まえていない。踏まえていないどころか、ところまで理由さえも告げない、ということに、僕は激しくいらだちを覚えているわけですよ。なんかありますか？ ここまでで。

山内：いやそれについては、おとつい、ちょっと（不明）でしたが・・・

野村：いや、（不明）

山内：話してきたから、それはお詫び申し上げます。

野村：渡辺さんと、渡辺課長と、副町長からはね、ちゃんと、ちゃんとしたお詫びをもらってます。それでね、一言も詫びようとしなかったのはね、今野さんだけです。もうあなたは何も言わなくていい。あなたの言葉を聞きたくない。今野さんの言葉は。でも、誤りたかったら、いま謝っていい。

山内：今野くんは、僕の指示に従ったから、俺が、私が言ったように、この間も、「今野さんを責めないで欲しい」と、私の、上司の指示に従っただけですから。それは私に責任あるということは、俺の皆さんに、あのそれでも言わさせてもらいました。

野村：僕は逆の立場だったら謝る。人にね、人に言われて、その指示に従っただけだとしろね。

今野：（不明）。一言も謝った、謝っていない・・・

野村：いや一言も謝っていない。だからもういいです。あなたは。